

都市再生整備計画 事後評価書

平成30年3月28日

計画の名称	横浜駅周辺地区（第2期）都市再生整備計画			
計画の期間	平成23年度 ～ 平成27年度（5年間）	交付対象	横浜市	
計画の目標				

特定都市緊急整備地域に指定されている「横浜駅周辺地域」として、治水安全度の確保や交差点混雑を解消し、歩きやすくなりやすい歩行者空間の創出を図る

計画の成果目標（定量的指標）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 帷子川分水路の流量を260m³/Sから350m³/Sで増加させる。 ・ 岡野交差点の渋滞長を200mから150mに減少させる。 			
----------------	--	--	--	--

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考						
	当初現況値 (H23当初)	中間目標値	最終目標値 (H27末)							
① 横浜駅周辺の治水安全度の向上	260m ³ /s	—	350m ³ /s							
② 交差点の渋滞長の減少	200m	—	150m							
		—								
全体事業費	合計 (A+B+C)	912百万円	A	912百万円	B	-	C	-	効果促進事業費の割合 (A(提案分)+C) / (A+B+C)	0.0%

事後評価（中間評価）

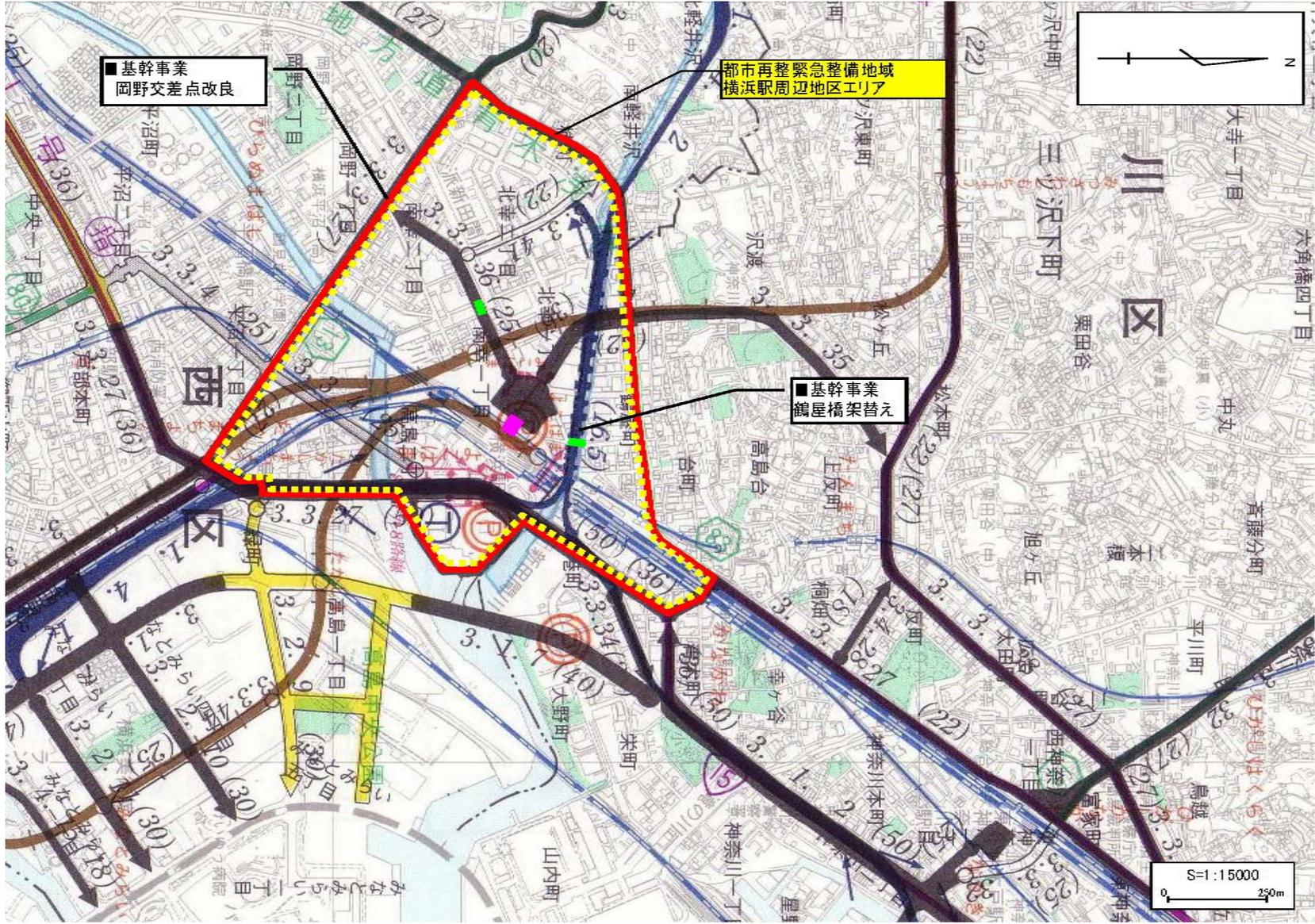
○事後評価（中間評価）の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
評価の透明性、客観性、公平さを確保するため、学識経験者を入れた評価を実施予定。	事後評価：平成27年度末時点
	公表の方法
	横浜市ホームページ

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業 【横浜駅周辺地区（第2期）都市再生整備計画】															
A1 基幹事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H23	H24	H25	H26	H27		
A1-1	道路	一般	横浜市	直接	横浜市	鶴屋橋架替え	L=25m、W=15m	横浜市						912	
A1-2	道路	一般	横浜市	直接	横浜市	岡野交差点改良	L=450m、W=27m	横浜市						0	
小計A（基幹事業）													912		
B 提案事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H23	H24	H25	H26	H27		
小計B（提案事業）													0		
合計（小計A（基幹事業）+B（提案事業））													912		

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況					
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		<ul style="list-style-type: none"> ・鶴屋橋の架け替え事業を開始しているが、完了しなかったため、治水安全度の向上の効果の発現はない。 ・鶴屋橋の架け替えの実施にあたり、橋を通行止めにしたことにより交差点の渋滞長は解消された。架け替え完了後も交通処理を変更することで効果の継続を図る 			
II 定量的指標の達成状況	指標①（横浜駅 周辺の治水安全 度の向上）	最終目標値	350m ³ /S	目標値と実績値 に差が出た要因	鶴屋橋架け替えが完了しなかったため。
		最終実績値	260m ³ /s		
	指標②（交差点 の渋滞長）	最終目標値	150m	目標値と実績値 に差が出た要因	周辺整備や関係機関等との調整により、本計画期間内での整備は行わなかった。 渋滞長については調査の結果、短縮していたが、要因や具体的な理由については解明できていない。
		最終実績値	150m		
		最終目標値		目標値と実績値 に差が出た要因	
		最終実績値			
	最終目標値		目標値と実績値 に差が出た要因		
	最終実績値				
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)					
3. 学識経験者の意見					
<ul style="list-style-type: none"> ・渋滞延長が短縮した理由については様々な要因が考えられるため、データ等に基づき客観的な説明が必要です。要因によっては、渋滞状況の悪化等もあるので、継続的に注意を払い原因を分析の上、必要な手立てを行っていく必要があります。 					
4. 特記事項（今後の方針等）					
<ul style="list-style-type: none"> ・鶴屋橋の架け替えについては、28年度から開始した「みなとみらい21周辺地区都市再生整備計画」において、目標達成に向け、引き続き推進します。 ・岡野交差点の渋滞については、状況を引き続き注視するとともに、必要に応じ周辺街区の整備に合わせた交差点の改良を今後行っていきます。 					

計画の名称	1 横浜駅周辺地区（第2期）都市再生整備計画		交付対象	横浜市
計画の期間	平成23年度 ～ 平成27年度（5年間）			



様式2-1 評価結果のまとめ

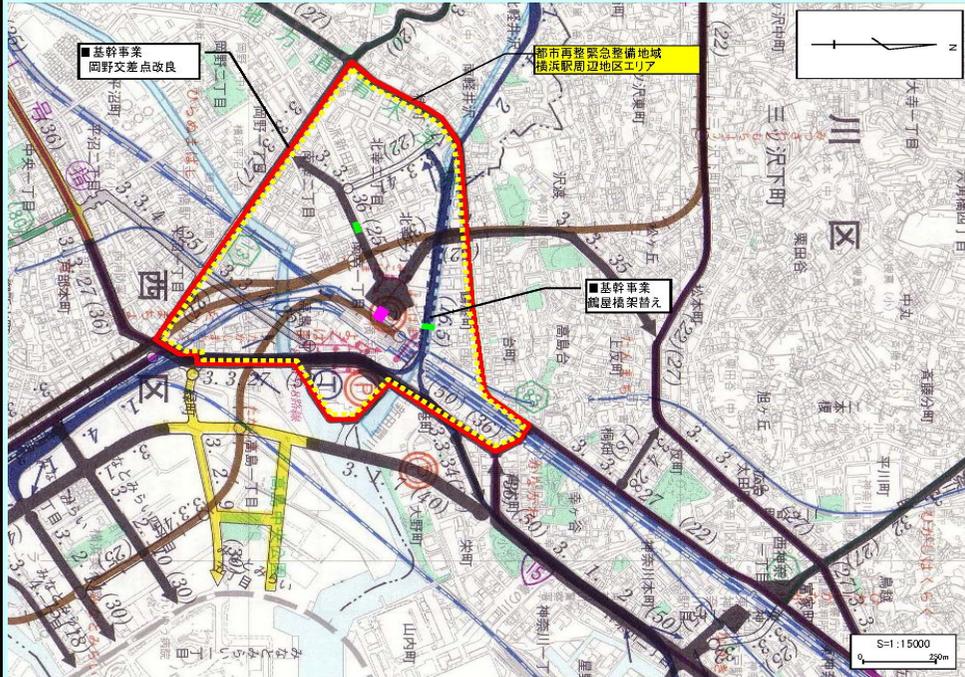
都道府県名	神奈川県	市町村名	横浜市	地区名	横浜駅周辺地区(第2期)			面積	90.0ha
交付期間	平成23年度～平成27年度	事後評価実施時期	平成29年度	交付対象事業費	912百万円	国費率	0.45		

1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名								
	基幹事業	提案事業	事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
	当初計画から削除した事業	基幹事業	【道路】鶴屋橋架替え		社会資本整備総合計画において、予定していた「跨線人道橋撤去」を、本計画期間内に実施しないこととなり、撤去後に整備を予定していたため						
			【地域生活基盤施設】きた東口歩行者広場		社会資本整備総合計画において、予定していた「跨線人道橋撤去」を、本計画期間内に実施しないこととなり、撤去後に整備を予定していたため						
			【地域生活基盤施設】きた東口自転車駐車場		社会資本整備総合計画において、予定していた「跨線人道橋撤去」を、本計画期間内に実施しないこととなり、撤去後に整備を予定していたため						
			【地域生活基盤施設】案内サイン整備		周辺整備状況等を勘案し、本計画期間内に実施しないこととしたため。						
			【高次都市施設】西口地下中央通路接続事業		H25年度から国際教則拠点都市整備事業に移行するところにより、都市再生整備計画事業での実施を取りやめた		目標「駅を中心に東西を一体的かつ円滑に移動・回遊できる歩行者ネットワークの整備を行う」の削除 指標「地区施設等として指定する歩行者空間の延長」の削除				
	新たに追加した事業	基幹事業	【道路】内海橋改良		工事内容の再検討により、本計画期間内に実施しないこととしたため。		指標「河積阻害の解消」を削除				
			【道路】岡野町交差点改良		駅周辺における慢性的な交通渋滞を緩和させるため		指標「交差点の渋滞長の減少」を追加				
交付期間の変更	当初	平成24年度～平成27年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響							
	変更	なし									
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
			単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み		
	指標1	治水安全度の向上	m ³ /s	260.0	H22	350.0	H27	260.0	×		
指標2	交差点の渋滞長	m	200	H24	150	H27	150	○	あり なし	鶴屋橋架け替えに伴い、車両通行止めとした影響もあり渋滞が解消された。	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
			単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み		
	その他の数値指標1										
その他の数値指標2											
4)定性的な効果発現状況	期間中から民間の大規模工事などがスタートし、エキサイトよこはま22の実現に向けて目に見える形で事業が進捗はじめました。										
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	住民参加プロセス	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	持続的なまちづくり体制の構築	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							

様式2-2 地区の概要

横浜駅周辺地区(第2期)(神奈川県横浜市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
横浜駅にふさわしい治水安全度を確保する。歩きやすく、わかりやすい歩行者空間の創出を図る。交差点混雑の解消	治水安全度の控除	単位: m ³ /s	260.0 H22	350.0 H27	260.0 H27
	交差点の渋滞長	単位: m	200 H24	150 H27	150 H27



まちの課題の変化	<p>課題1: 羽田空港の国際化に対応した交通アクセスや乗換利便性の駅機能の強化を図っていく必要がある。→継続</p> <p>課題2: 来街者や観光客をひきつける魅力的空間やゆとりある歩行環境が不足し、不便さとともに混雑を高める原因になっている。→2020年に向け、西口の駅前広場を再整備予定</p> <p>課題3: 駅周辺道路は自動車の集中や通過交通の流入により慢性的な交通渋滞が発生している。→鶴屋橋架け替え完了時に交通処理を変更し、駅前への車両の流入を減らし、歩車の錯綜を一部解消することができる。</p> <p>課題4: 河川などの地域資源が十分に活用されず、海や川への近接性や地下街を有していることから浸水に対するまちの安全度向上が求められている。また、発災時の避難や帰宅困難者で混乱が生じる。→継続</p>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	